

# ケアセンター南昌

## 事業評価委員会（外部）評価報告書

### ケアセンター南昌事業評価委員会

- ◎座長：北村 道彦（町立西和賀さわうち病院長）  
委員：村松 徹（矢巾町特命担当課長）  
（代理）田村 英典（矢巾町健康長寿課長）  
委員：高橋 正子（前矢巾町民生児童委員）  
委員：水本 紘一（前矢巾町行政相談委員）  
委員：山本 直樹（岩手日報紫波支局長）  
委員：高橋登美夫（介護老人保健施設シェーンハイム  
やはば事務長）  
委員：中村 幸夫（介護老人保健施設カルモナ施設長）

平成 30 年 11 月 30 日

## 目 次

		ページ
I	はじめに	1
II	評価報告書	2
	観点 1 ケアセンター南昌業務内容の地域への情報発信と地域や住民からのニーズ把握への取組み	2
	観点 2 質の高い医療・介護の提供への取組み	2
	観点 2-1 利用者の事故防止への取組み	2
	観点 2-2 感染症や食中毒防止への取組み	3
	観点 2-3 利用者のリフレッシュや地域・ボランティア団体との連携・協力	3
	観点 2-4 医療機関との連携に関する取組み	3
	観点 2-5 看取りへの取組み	4
	観点 2-6 提供している食事内容の妥当性や食事摂取促進への取組み	4
	観点 3 人材育成への取組み	4
	観点 4 職員の健康管理への取組み	5
	観点 5 防災・減災への取組み	5
	観点 6 業務の改善や安定的経営、経費節減への取組み	5
	観点 7 不適切事案等の発生とその対応等について	6
III	総括	6

## I はじめに

平成 30 年 11 月 1 日、ケアセンター南昌（以下「ケアセンター」という。）において表記の評価委員会を開催した。委員会では、あらかじめ委員にケアセンターが作成した「自己評価報告書」をご覧いただき、事前に記入いただいた事業評価シートや関連資料を参考として、各委員から観点ごとの意見を聴取するとともに、必要な説明をケアセンターの出席者に求めながら自己評価報告書を吟味した。

後日、委員から出された意見や感想を委員長が集約する形で取りまとめたものを「評価報告書（案）」として各委員へ送付し、再度意見等を聴取した後に最終版としケアセンター南昌センター長（以下「センター長」という。）吉岡尚文氏に提出した。

なお、中村委員は委員会当日所用により欠席であったが、予め、当日の午前中にケアセンターに自身の評価シートを持参し、センター長に提出されていたものを座長が受け取り、評価報告書に反映させた。

評価委員による評価のスコアは、自己評価の基準に準じた。委員によりそれぞれの観点に多少のばらつきが認められたため、委員会の最終評価スコアは委員 7 人の平均値を四捨五入し、整数で表記した。

また、ケアセンターが自己評価報告書で設定した評価の観点の妥当性や観点到に則した記述がなされているか、観点对する評価は妥当であるかに関しては、全評価委員が妥当であったと評価している。

超高齢化社会を迎え、認知症の増加が確実視されている我が国において、それぞれの地域にはケアセンターのような施設は必要不可欠である。開設 5 年を振り返る形で質の高いケア提供を目標として、このような自己評価・点検を自発的に実施した点は高く評価したい。

ケアセンターにおかれては、この評価報告書に記された意見を尊重しながら事業を展開し、地域包括ケアシステムの重要な事業主体として、必要な改善を重ねつつ地域に貢献し続ける社会資源として邁進して欲しい。

ケアセンター南昌事業評価委員会  
座長 北村 道彦

## Ⅱ 評価報告書

### 各観点に対する評価委員会の意見

#### 観点1 ケアセンター南昌業務内容の地域への情報発信と地域や住民からのニーズ把握への取り組み

情報の発信は、各種広報媒体を利用して適切に行われていると判断できるが、広報対象地域を自治会に対してとか、町内、盛岡市等、具体的に記述したほうが良いと考える。また、事業所の空室状況をホームページで案内しているが、ショートステイやはばのみなので、通所や入所、グループホームなど他の事業所の空室状況もリアルタイムで掲示するのが親切である。

また、ニーズの把握に関しても、介護支援相談員や居宅介護支援事業所などを通じて概ね適切に為されている。

特記すべきこととして、法人の職員が「お助け劇団」を組織し、各地に出向いて住民に対する認知症の理解を深める活動をしている点は高く評価できる。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、**評価委員会としては4と判定する（評価3：3人、評価4：3人、評価5：1人）。**

#### 観点2 質の高い医療・介護の提供への取り組み（総論）

利用予定者の入所妥当性の判定会議を事前に行っていることや、勤務交代時の引継ぎを徹底していることは、安全性の面から重要である。事業所によって外部評価を受審し、利用者の満足度調査を行い日常の運営に反映させている。また、ケアセンターとして毎年計画的に職員を対象とした研修会を開催している点は良い取り組みであるが、講師の話を聞く講演会形式の研修に加えワークショップ形式（参加型）の研修会を行うことも考慮すると良いであろう。可能であれば他の事業所職員も聴講できるよう便宜を図ってはどうか（実際には行っている）。一方、内部の研修とは別に、外部の団体が行う研修会への出席も法人として積極的に支援している。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、**評価委員会としては4と判定する（評価3：3人、評価4：4人）。**

#### 観点2-1 利用者の事故防止への取り組み

ケアセンターとしてインシデントやアクシデントの事例を収集し分析している。ただ、転倒転落の症例の多い点が気になり、分析と対策が必要である（総師長より転落発生数に関する背景や発生事例を分析・再発防止策を共有していることの追加説明があり、理解できた）。事例分類の中で、「その他」に分類さ

れる例がある程度の数となっているので、再発防止の視点から具体的な内容を周知・把握できるようにしてはどうか。

また、心肺停止や意識障害等緊急性を要する事態の発生に際し、全館放送による「エマージェンシーコール」で医師・看護師が発生現場へ急行するシステムが機能しており、優れた対応といえる。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、**評価委員会としても3と判定する（評価3：6人、評価4：1人）。**

#### **観点 2-2 感染症や食中毒防止への取組み**

該当する研修会を通じて職員へは注意喚起し、対応策を伝えているようであるが、全職員が受講しているかどうかを確認し、受講率100%にする努力が必要である。

リハビリ職員や歯科衛生士の関与による誤嚥性肺炎予防の日常的な取組みは、重要であるので、引き続き実施するように。インフルエンザの発生時には、予防投与を実施するなどして感染拡大に努めている。また、これまでノロウィルス感染の発生はないとのことだが、引き続き感染防止対策を徹底して欲しい。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、**評価委員会としても3と判定する（評価3：6人、評価4：1人）。**

#### **観点 2-3 利用者のリフレッシュや地域・ボランティア団体との連携・協力**

地域との連携やボランティア団体との協力は、総体的に活発に取り組んでいると判断できる。特に保育園児との幼老交流はケアセンターの特異的で優れた取組みといえる。また、センター長が主導する詩吟教室も特徴的である。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、**評価委員会としては4と判定する（評価3：2人、評価4：4人、評価5：1人）。**

#### **観点 2-4 医療機関との連携に関する取組み**

こずかた診療所との連携がうまく機能しており、家族・利用者にとっても安心と思われる。観点2-1でも述べたが、緊急時のエマージェンシーコールは引き続き機能させて欲しい取組みである。また、病院での治療が必要な症例では、同じ法人経営の南昌病院へ依頼するなどの他、盛岡赤十字病院、岩手医大附属病院、岩手県立中央病院等へも適宜紹介している。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、**評価委員会としても3と判定する（評価3：4人、評価4：3人）。**

### 観点 2-5 看取りへの取組み

看取りの説明書や同意書の作成と運用など、適切に取り組んでいる。施設での看取りの必要性が高まっていることから、今後も積極的に取り組んで欲しい。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、**評価委員会としても3と判定する（評価3：7人）。**

### 観点 2-6 提供している食事内容の妥当性や食事摂取促進への取組み

アンケート調査の結果から、提供されている食事への満足度は高いことが読み取れる。また、検食は多くの職種が持ち回りで実施している点は特徴的であり、職員の食事に対する意識変革に寄与しているようである。食事中にムせる人や摂取量の少ない人など、食事摂取に問題を有する人に対しては、多職種でミールラウンドを実施し、皆で意見を出し合って改善を図っている点もすぐれた取組みといえる。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、**評価委員会としても3と判定する（評価3：5人、評価4：2人）。**

### 観点 3 人材育成への取組み

法人としての一括採用の他にケアセンターとしての採用もあるが、ケアセンターでの採用では事前に複数による面接のほか、職種によっては小論文を課しており、優れた人材の獲得に努力しているようである。また、全職員に対して必要経費をケアセンターが負担し、外部研修参加の機会を積極的に提供しており、毎年参加者が多く立派である。更に、キャリアアップや資格取得の研修会への参加、学会での研究発表も積極的に促しており、職員の資質向上やモチベーションアップに寄与していることが伺える。加えて、学会発表に伴い倫理委員会での事前審査を実施していることは模範的であり、特筆できる点である。

ケアセンター職員の育成とは別に、県内外の大学や専門学校、高校などから実習する学生、生徒を積極的に受け入れている。確立された指導体制のもと、担当者を指定し、きちんと対応している点も優れている。

その一方で、育成しつつある職員の退職が散見されるのは残念である。特に介護系の人材不足は県内でも深刻な状態になりつつあるので、職場環境に配慮しつつ退職者を出さない工夫が求められる。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、**評価委員会としても3と判定する（評価3：4人、評価4：3人）。**

#### 観点4 職員の健康管理への取り組み

法律に定められた定期健康診断、ストレスチェックは実施されているが、実施した後の分析やフォローをしっかりと行い、職場環境や労働時間の改善に資することが管理者に求められる。更に、医師の有給休暇取得がゼロである点は気になる点であり、有給休暇取得の職種間差をなくすことや夏季休暇の取得率を上げること、残業を削減することなどは、事業所として前向きに取り組む必要がある。

また、インフルエンザワクチン接種率を上げることや、B型肝炎、麻疹、水痘、流行性耳下腺炎等の抗体価確認とそれに則ったワクチン接種も考慮すると良いであろう。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、**評価委員会としても3と判定する（評価3：6人、評価4：1人）。**

#### 観点5 防火・減災への取り組み

災害発生時の対応マニュアルの策定やケアセンター内の消防設備の定期点検実施、毎年2回の防火・防災訓練の実施、職員の防火管理者・防災管理者の育成など、適切に実施されている。自然災害による人的被害が各地で散見されており、引き続き積極的に取り組んで欲しい。

一方、岩手県災害派遣福祉チームとして「チーム南昌」を組織し、災害による被災地へ出向き支援活動を行っていることや、県内被災地の被災者や町内避難者の一部を受け入れた実績を有している点は、卓越した取り組みといえる。

以上により、本観点の自己評価は4であるが、**評価委員会としても4と判定する（評価3：2人、評価4：2人、評価5：3人）。**

#### 観点6 業務の改善や安定的経営、経費節減への取り組み

職員一人ひとりが日常業務を行う上でのコスト意識は経営母体の安定を維持するためにも重要である。ケアセンターでは毎月開催されている事業運営会議（管理者、役職員が参加）で各事業所の利用状況と実績を提示し、利用者確保に向けた検討を行っている他、事業所ごとに毎年度事業目標を設定し、事業を行いながら進捗状況を点検している点は相応の努力と考えられる。また、毎年職員から事業の効率化や経費節減に資するアイデアを募集し、顕彰と同時にいくつかを実践している点は優れた取り組みである。

常置的な委員会を設置し、各種業務の円滑な推進を図っていることや、「ケアセンター南昌創造的プロジェクト」8つを立ち上げ、これまでの5年間の実績を踏まえながら、今後のケアセンターの中・長期的展望の策定に着手していることから、その推移を見守りたい。

なお、経費節減の活動では、水道費の削減が特記できるものの、取組みの効果をもう少し可視化する(具体的な効果の提示や節約できた金額など)ことで、職員の意識改革にもなるのではないか。

以上により、本観点の自己評価は3であるが、**評価委員会としても3と判定する(評価3:5人、評価4:2人)**。

#### 観点7 不適切事案等の発生とその対応等について

業務中の交通事故や職場内での各種ハラスメント等、不適切事案については真摯に対応しているが、その発生を極力防止する努力が必要である。発生時には被害の拡大や影響を最小限度に抑えることも重要である。職員の教育・研修やOJT等への取組みも肝要といえる。

この観点に関しては、自己評価書を通読するに留めておき、委員会としての評価行わない。

### Ⅲ 総括

自己点検評価は10年程前から我が国においても一部の領域で定着しつつあり、PDCAサイクルを効果的に稼働させるためには不可避の手段となっている。行政や教育機関においては、年度毎あるいは5~7年に一度実施されている。医療機関においては病院機能評価を通じて質を担保する体制が整っている。しかし、多くの介護領域においては、未発達であり、法律での義務付けはなく、事業の質の保証は、行政の実地指導などが一部分でその役割を担っている。

評価は事業や活動を改善し、より良いものにするための一つのステップであり、順番付けやランク付けではない。更に、評価なくして次の目標は設定し難く、実現できないとまで言われている。

現実社会に眼を向けると、平成30年4月から医療保険や介護保険制度が改定され、国は医療や介護に要する経費の削減に一層ベクトルを向け、我々の環境の厳しさが増したといえる。このような中で、ケアセンター南昌が現在地に開設してから5年経過した時期を捉え、次の5年あるいはその先を視野に入れつつ、自己評価を実施し、我々外部の評価委員に点検を依頼したことは時に叶った対応といえ、敬意を表したい。

今回の外部評価を踏まえ、将来に向けしっかりした目標を掲げ、地域の方々に喜ばれる施設となり、安定的な経営のもと、社会に一層貢献してくれることを委員一同切に期待する次第である。